

製造者情報

会社名: マサキ産業株式会社
住 所: 川崎市川崎区下並木13-7
担当部署: 化成品グループ
TEL: 044-244-1575
FAX: 044-222-4951

SDS No. M-4SC-PI

作成 平成30年3月13日

製品名	4SクリンPI
------------	----------------

組成及び成分情報

・単一製品・混合物の種類 混合物

化学名又は一般名	濃度範囲	化学式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
アルコール類	80%以上	非公開	非公開	非公開
テルペン類	20%以下	非公開	非公開	非公開

危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体	区分2
自然発火性液体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
金属腐食性物質	区分外
急性毒性	
経口	区分5
経皮	区分5
吸入(気体)	区分外
吸入(蒸気)	区分外
吸入(粉じん、ミスト)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	区分外
目に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A - 2B
感作性	
呼吸器	分類できない
皮膚	分類できない
生殖細胞変異性	区分外
発がん性	区分外
生殖毒性	区分2
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、腎臓、全身毒性) 区分3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分2(血管、肝臓、脾臓)
吸引性呼吸器有害性	区分2
水生環境	
急性有害性	区分1
長期間有害性	区分2

GHSラベル要素



危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有害のおそれ
皮膚に接触すると有害のおそれ

強い眼刺激
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
中枢神経系、腎臓、全身毒性の障害
長期又は反復暴露による血管、肝臓、脾臓の障害のおそれ
飲み込み、気道に侵入すると有害の恐れ
水生生物に対し極めて毒性が強い
長期的影響により水生生物に非常につよい毒性

注意書き

予防策

容器を密閉にし、涼しく換気の良いところに施錠して保管すること
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。 - 禁煙
保護手袋及び保護眼鏡/保護面を着用すること。
静電気放電に対する予防処置を講ずること。防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用
使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
必要に応じて個人用保護具を使用すること。
妊娠中/授乳期中は接触を避けること。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でのみしようすること。
粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
(必要なとき以外は)環境への放出を避けること。

応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い場合は医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で15分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗淨を続けた後、眼科医の手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

暴露又は暴露の懸念の場合

医師の診断/手当てを受けること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

応急措置をする者の保護

換気を良くし、保護具を着用すること。

火災時の措置

火災の場合は適切な消火方法をとること。

粉末消火薬剤、耐アルコール性泡消火薬剤、二酸化炭素、砂
使ってはいけない消化剤

棒状注水

火災時の特有の危険有害性

二酸化炭素、一酸化炭素を含むガスを発生するおそれがある。

特有の消化方法

消火作業は、可能な限り風上から行う。

消化を行う者の保護

消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出時の処理を行う際には、必ず保護手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用する。
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。
屋内の場合は、処理が終わるまで十分に換気する。
風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

流出した製品が、河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
悪臭又は刺激性が強いため、周辺の住民に漏洩の生じたことを通知する等の適切な措置を行う。

封じ込み及び浄化の方法・機材

少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によくふき取る。多量の場合は、土砂などの不燃物で囲って流出を防止し、スコップ又は吸引機などで空容器に回収する。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

使用温度: 常温
取扱は換気の良い場所で行う。
火気厳禁
静電気に対する予防策を講じること。

安全取扱注意事項

容器を転倒、落下、衝撃を加え、又は乱暴な取扱をしてはならない。

接触回避

特になし

衛生対策

指定された場所以外では、飲食、喫煙を行ってはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

容器を密閉しておくこと。
涼しいところに置き、日光から遮断すること。
熱源、着火源が内場所に保管する。
高温多湿な場所を避けて保管する。
施錠して保管すること。

安全な包装材料

専用の詰替容器などを使用すること。

暴露防止及び保護具措置

管理濃度

200ppm

許容濃度

日本産業衛生学会(2005年度版) 400ppm

設備対策

適切な防爆型の電気・換気・照明機器を使用。
作業環境濃度を暴露限度以下に保つよう換気設備の対策をする。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて有機ガス用マスクを着用する。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

サイドシールド付きの樹脂製保護眼鏡、樹脂製ゴーグルを着用する。
通常の作業着で良いが、長袖の作業着を着用する。
必要に応じて合成樹脂又はゴム製の前掛け、腕カバーを着用する。
静電気防止靴を使用する。

物理的及び科学的性質

物理的状态

形状

液体



色	無色透明ないしは微黄色
臭い	特有の芳香
pH	中性
物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲	
引火点	(製品として) 13 (密閉式)
発火点	(アルコール類) 456 (テルペン類) 300
蒸気圧	(アルコール類) 4.4KPh(20) (テルペン類) 0.37KPh(25)
比重(相対密度)	0.8(20/25)(比重)
溶解性(製品として)	
水	不溶
その他の溶媒	アルコールに可溶

安定性及び反応性

安定性	常温で安定
危険有害反応可能性	硝酸、過塩素酸塩など強酸化剤などと激しく反応する。
避けるべき条件	日光、熱、裸火、スパーク、静電気、その他の着火源
混触危険物質	硝酸、過塩素酸塩など強酸化剤。
危険有害な分解生成物	燃焼の際は一酸化炭素、二酸化炭素など有害ガスを生成する。

有害性情報

急性毒性	
経口	区分5(飲み込むと有害のおそれ)
皮膚	区分5(皮膚に接触すると有害のおそれ)
吸入(蒸気)	区分外
吸入(ミスト)	区分外
皮膚腐食性・刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷	区分2A(強い眼刺激)
呼吸器感受性又は皮膚感受性	区分外
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分外
生殖毒性	区分2
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	区分1(中枢神経系、腎臓、全身毒性) 区分3(気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	区分2(腎臓)
吸引性呼吸器有害性	区分2

環境影響情報

生態毒性	データなし
急性(短期間)水生有害毒性	(アルコール類) 区分外 (テルペン類) 区分1(水中生物に対して極めて毒性が強い)
長期間水生有害毒性	(アルコール類) 区分外 (テルペン類) 区分1(長期的影響により水中生物に非常に強い毒性)
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

廃棄上の注意

残余廃棄物 汚染容器及び包装	都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物業者に委託処理する。 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
-------------------	---

輸送上の注意

国内規則

海上規則情報

航空規則情報

陸上規則情報

輸送の特定の安全対策及び条件

海洋汚染防止法、船舶安全法に従った容器、積載方法で輸送する。
航空法に従った容器、積載方法で輸送する。
道路法、消防法に従った容器、積載方法で輸送する。
荷崩れ防止を確実に行う。乱暴な取扱いを避ける。

適用法令

化学物質管理促進法(PRT法)

労働安全衛生法

消防法

船舶安全法

航空法

港則法

海洋汚染防止法

該当しない

施行令別表第1危険物(引火性の物)

危険物第4類引火性液体 アルコール類(指定数量400L)

引火性液体類

引火性液体類

施行規則第12条危険物(引火性液体類)

施行令別表第1有害液体物質

その他の情報

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。
